

病院版 1  
2011/12/6



# OPEN オープンユニオン 岐阜大学職員組合ニュース UNION



岐阜大学職員組合発行  
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1  
Tel/Fax058-230-1118,内線 9552  
Email: [kumiai@gifu-u.ac.jp](mailto:kumiai@gifu-u.ac.jp)  
HP: <http://www.gifunion.gr.jp>

岐阜大学職員組合は、組合ニュース「OpenUnion」病院版を発行し、病院で働く皆様に必要な情報をお知らせします。

## 女性部・病院支部合同企画 寄せ植えとランチ

日時：2011年12月17日(土)  
10時～寄せ植え  
13時～ランチ



昨年作品

会場：寄せ植え 教育学部棟裏庭

鉢と苗を購入の方はホームセンター・バロー集合

ランチのお店 未定

どちらかだけの参加でもOKです

参加費：1000円(ランチ代のみ)  
寄せ植え経費は実費負担

未組合員のみなさんも是非ご参加ください!

連絡先 岐阜大学職員組合事務局 (内線) 9552  
[kumiai@gifu-u.ac.jp](mailto:kumiai@gifu-u.ac.jp)

# 医科系大学教職員懇談会(医大懇)11月に名古屋大学で開催 当大学から7名参加しました。<感想集>

## 第1分科会

7:1看護取得によりどのような問題があるかよくわからず参加していたが、分科会に参加し、新人教育の労力の大きさ、指導にあたる看護師の負担が大きいこと、休日や休憩時間は少なく、超過勤務が多いことなど労働時間や労働環境が改善されていないことetc現場で働いているうえで、課題が確かにあると認識できました。業務にゆとりがないこと・疲れている現状を改善するために人員増大・夜勤時ねむい中での業務時の安全な勤務体制・休憩時間を増やすなど現場の声を話し合うことの大切さがわかりました。仕事が休日に影響しないように一人ひとりのワークライフバランスを保障していく活動が必要であると思いました。看護師の給料はとて低く、超過勤務手当や、夜勤手当で多く見えるだけで、将来、退職金や年金をもらう際にとて少ないのが現状であることがよく理解できた。これだけ働いているのに還元されないのは変だと思いました。社会を変えていける組合が良いと思った。(理想)職員組合に入ったばかりで、組合の成果がまだ実感できていないので、要求を実現して欲しいと思った。(J.H)

## 第1分科会

卒後研修・教育制度の話では大学毎に違いがあることがわかりました。岐大では、新人研修として各専門看護師による院内研修が開催されます。日々の研修・指導はプリセプターナースがマンツーマンで指導しています。プリセプターナースはとて大変なようです。岐大は2~3部署をのぞき2交替勤務制をとっており、若い人は2交替が良いというのですが、長時間勤務には変わらないのです。体に良くないのは当然ですが、当たり前状態になっているのが怖いのです。こんな働き方はおかしいといえる様、また皆の中に思えるようにしていきたい。(T.K)

## 第2分科会

それぞれの大学で、病院の規模が違うし労働環境も違っている。今までの医療の流れとして在院日数がどんどん短くなり、その間に看護の内容はますます増えており、患者に援助することが多くなり、超過勤務の多い。記録にかかわる時間が超過勤務時間の中で多い。褥創予防・転倒アセスメント、治療計画書等患者の変化に合わせて必要となっている。職場のワークライフバランスが言われ、出産・子育てについての環境は良くなっているが、それ以外の年齢の職員は負担が多くなっている。また、学童を持つ看護師へのサポートも必要となっている。自己の大学で要求をまとめ、働きやすい労働条件へと訴えていくこと、そのためにも仲間作りが大切であることがわかりました。そして、その要求を全大教にまとめ社会的な要求であることを訴えていくことが必要であるとわかりました。(T.F)

## 医大懇の感想

組合というのは、助ける立場である。一人ではできないことを代わってはなしあって、安心できる所である。わかっているが理解されているとは思えない。もっともっと発信していかなくてはいけないことと、それは組合がなにをしているか見えてこないためである。組合をとおして感じるのは人脈作りが大切であるということ。人はみな自分にとって不都合なことがあると、色々問題に思うが、何も感じていなければ組合の必要性は何も考えられないだろうと思ってしまいが、やはり小さい組織で勉強していき、又、それを拡大していくことで変化はしていけるのではないだろうかと思う。

(Y.M)

## (第3分科会「魅力ある組合と組織づくり」に参加して)

私は今回初めて参加しましたが、各大学では、組合の活性化に向けて意欲的に取り組んでいるという印象を受けました。特に新入職者(主に看護師)を対象にした入職時のオリエンテーションについては、今回集まった大学の殆んどが実施しており、組合の存在や活動内容を説明されていました。方法は様々であるが、基本的に昼食あるいは軽食を準備し、パワーポイントを活用して説明がされていました。当大学も今年度、初めて新人看護師を対象にオリエンテーションを実施しているが、他大学のようなオリエンテーションを実施していないため、もっと積極的な勧誘をしていかなければいけないと刺激を受けました。来年度は、方法を見直し実施できればよいと思いました。

また組合員の定着に関しては、各大学で様々な取り組みをされていました。パーベキューや花火大会などのレクリエーションはもちろん、コーヒー券や映画券などのプレゼントや組合の紹介用のパンフレット作成など各大学で検討し、実施されていました。このような取り組みを行っても残念ながら定着には至っていないが、当大学はあまり活動できていないため、もっと魅力ある組合にできるよう、活動していかなければならないと思いました。

## (全体的な感想)

今回の参加は初めてなので緊張しましたが、他大学の方との交流はとて楽しく、有意義な時間を過ごすことができました。意見交換から組合の現状だけでなく、職場での環境についても話すことができ、どこの大学も同じような悩みを持っているなど共感できました。また、映画上映会では、「ナイチンゲールの看護覚え書」を基にした「病気は回復期である」という映画を鑑賞した。学生時代に読んであまり理解できなかった内容であったが、映画で振り返ることにより、改めて、本に書かれている内容を理解することができた。そして、看護職についたばかりのあの時の気持ちを思い返すことができ、看護の原点を見つめ直す良い機会にすることができました。

またこのような機会があれば参加し、他大学の方と交流を持ちたいと思いました。(K.G)